

現場で使える！研究成果

単収伸び悩むアスパラガス  
柵板式高畝栽培で  
収益向上と省力化



柵板式高畝栽培

アスパラガスは県の基幹品目の一つだが、株の老齢化や排水不良などの土壌環境の悪化により、単収が伸び悩んでいる。また、生産者の高齢化が進み、毎日の収穫作業などの労働負担も大きく、生産者数や作付面積が減少傾向で推移している。

そこで、平畝栽培と比較して労働負担を軽減し、省力的にアスパラガスを栽培できる、香川県で開発された「柵板式高畝栽培」（以下「高畝栽培」）を用い、県の主要品種「ウエルカム」と有望品種「ゼンユウガリバー」の収量性、収益性、収穫時の労働負担や土壌の排水性を検討した。

その結果、高畝栽培で

表 栽培方法と品種の違いによる可販収量と可販収穫本数および可販1茎重

栽培方法	品種	可販収量 <sup>※</sup> (kg/a)	収穫本数(千本/a)	1茎重(g)
高畝	ゼンユウガリバー	331(138) <sup>※</sup>	19.8	16.7
	ウエルカム	239	15.3	15.6
平畝	ゼンユウガリバー	255(164)	15.3	16.5
	ウエルカム	155	10.7	14.2

<sup>※</sup>可販収量：JA 全農ながさき出荷規格（若茎を 26cm に調整）に準ずる秀品収量および優品収量の合計

<sup>※</sup>ウエルカムを 100 とした場合の収量割合

は平畝栽培と比較して品種にかかわらず収量と収穫本数が増加した（表）。

また、収穫時の労働負担軽減と土壌の排水性についても改善効果が得られた（データ略）。

さらに、高畝栽培での収量性について品種間で比較すると、ゼンユウガリバーはウエルカムと比較して 38% 増収し、1 畝当たり約 7 万 6 千円の収益向上が見込まれる。

以上のことから、アスパラガスの高畝栽培では労働負担の軽減と増収の両立が可能で、ゼンユウガリバーと組み合わせることによってウエルカムと比較してさらなる収量・所得の向上が期待される。

（県農林技術開発センター 農産園芸研究部門 小川内瑠魁）